

墨色を楽しむ—究極の黒

会 期 2004年6月26日(土)～8月31日(日)

日本絵画における黒は、すなわち墨であると言ってもいいほど、墨は黒色の顔料としてよく用いられています。しかし、ひとくちに墨といっても、青みをおびたものや褐色をおびたものなど、それぞれが繊細な色調を持ち、紙や絹にほどこされたときに見せる濃淡や潤濁といった表情は、古くから“墨に五彩あり”といわれているように実にさまざまです。墨色を主体として描かれる水墨画や書は、そうした墨の美しさと可能性を最大限に引き出す芸術といえるでしょう。植物油や松まどを燃やして集めた煤を膠で練り、それを乾燥させてつくる墨は、古代中国で発明されて以来、2000年以上にわたって絵画や書に用いられてきました。もともとは磨って墨汁とするための筆記用具ですが、単なる道具としての機能を超え、“文房四宝”とうたわれるように、書齋（文房）で欠くことのできない大切なもののひとつとして、画家をはじめ書家や文筆家、知識人たちに収集、愛玩されてきました。また、故事にまつわる意匠や吉祥文様がほどこされた古墨は工芸品としても評価され、その精巧さやかたちは多くの人びとを魅了してきました。本展では、近世、近現代の水墨画をはじめ、墨象といわれる近代書を展示し、墨によってつむぎ出される絵画や書の墨色をお楽しみいただくとともに、さまざまな意匠がこらされた墨の美しさと面白さをご紹介します。ぜひ、この機会に墨が持つ豊かな表情をご覧ください。

- 会 場 高崎市タワー美術館（370-0841 高崎市栄町 3-23 電話 027-330-3773）
- 時 間 午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）
金曜日のみ午前10時～午後8時（入館は午後7時30分まで）
- 休 館 日 毎週月曜日（祝日の場合は開館、翌日休館）
会期中の休館日：6/28、7/5・12・20・26、8/2・9・16・23・30
- 観 覧 料 一般：500円（400円）、大高生：300円（250円）、中小生：200円（150円）
- ()内は20名以上の団体割引料金
 - 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方、および付き添いの方1名、65歳以上の方、未就学児は無料となります
 - 市内に居住する小中学生については、毎週土曜日は無料となります
- 主 催 高崎市タワー美術館
- 後 援 朝日新聞前橋総局、産経新聞前橋支局、上毛新聞社、東京新聞前橋支局、日本経済新聞社前橋支局、毎日新聞前橋支局、読売新聞東京本社前橋支局、NHK前橋放送局、群馬テレビ、エフエム群馬、ラジオ高崎
- 企画協力 山種グループ

関連事業

- ワークショップ 「体験！墨づくり」 7/24 14:00～・16:00～、7/25 10:00～・12:30～
- 学芸員による作品解説会 6/26、7/10、7/31、8/14、8/28 14:00～